



特集

本県の稲作農業の現状と本会の取組み

米穀部



Miki

季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「エゾリンドウ」

(リンドウ科)

北上山地の草原で、みごとにエゾリンドウの群落に出会った。草原は、一面のエゾリンドウで青紫色に煙り、まわりの木々を「ドドウ、ドドウ」と揺らしながら、秋の風が吹いていた。今にも、その風の向こうから、黒いマントに身を包んだ宮沢賢治が現れるのではないかと思われた。

『あありんどうの花が咲いている。もうすっかり秋だねえ』カムパネルラが、窓の外を指さして言いました。『ほく飛びおりて、あいつをとって、また飛び乗ってみせようか』

ジョバンニは胸をおどらせて言いました「童話『銀河鉄道の夜』で、天の野原に来たジョバンニとカムパネルラの目の前を、湧くように、雨のように「通り過ぎていったのは、」

「月長石でも刻まれたような、すばらしい紫のりんどうの花」だった。

参考資料：澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社 平成18年4月20日 第7版発行より)

純情産地発 **KLARA** vol.830 09
クラーラ 2018

タイトルのKlara (クラーラ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、スペイン語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

純情産地いわて 30th みんなでいわての未来を育もう。

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みのるinfo	07
特集		報告! 出向く活動班	08
本県の稲作農業の現状と本会の取組み	03	純情むすめ活動記	09
「純情産地いわて」から感謝をこめて	06	純情人	09
消費地だより	07	ニュースワイドアングル	10



JR東京駅・花巻空港PR看板デザイン

■図2 広域集出荷センター概要

名称	所在地	延床面積	標準収容力
いわて純情米広域集出荷センター「絆」	花巻市	3,841.9坪 (倉庫: 3,656.8坪、 検査場: 185.8坪、 管理棟: 39.3坪)	18,580ト
いわて純情米県北広域集出荷センター「結」	滝沢市	2,994.8坪 (倉庫: 2,697.1坪、 検査場: 258.5坪、 管理棟: 39.2坪)	12,950ト



いわて純情米県北広域集出荷センター「結」(平成29年9月稼働)

4. 流通コスト低減に向けた取組み

広域集出荷センター(低温倉庫)を県内2か所に設置し、お米を集約的に保管することにより保管料の圧縮に努めています。更に温度・湿度を適正に管理することによって、品質を保持し安定した品質での出荷をおこなっています(図2)。また、

- (1) マーケットインに基づく事前契約(播種前・複数年)の実践
- (2) 直接販売・買取販売の拡大による安定的な生産量の確保
- (3) 県産オリジナル品種のブランド化と販売強化
- (4) 流通コスト低減に向けた取組み

このような情勢の中、私たちは生産者が安心して生産し安全で高品質なお米を消費者に届けることを第一の目的として、左記の項目に取組んでいます。

平成29年産米は、出穂以降に日照不足などの天候不順に見舞われ、岩手県の平均作況指数は「98」の「やや不良」という結果となりました。また、このことが影響し、お米の食味ランキングで22年間「特A」を獲得していた「県南ひとめぼれ」をはじめとした県産米で、非常に厳しい結果となりました。平成30年産米の生育状況については、田植えの時期から活着まで順調に推移してきましたが、6月中下旬の分けつ時期の低温の影響で、平年の育成度を若干下回りました。その後天候も回復したことから生育も順調に進み、出穂から登熟の時期を迎えています。

1. マーケットインに基づく事前契約(播種前・複数年)の実践

平成30年産米について取引先への需要調査を実施し、その結果を基に県内JAと協議を重ね、計画的な生産と安定した販売先を確保することによる生産者所得の安定を目的として、取引先に対し、事前契約の締結を提案しました。結果、集荷計画115,000トに対し81,700トの事前契約を締結することができました。具体的には取引先

■図1 平成30年産米 事前契約数量 【単位:ト、%】

銘柄	集荷計画 ①	30年産		集荷計画対比 ③=②/①
		事前契約 確定数量 ②		
ひとめぼれ	82,000	60,018		73%
		内、単年	10,000	
		内、複数年	50,018	
あきたこまち	17,900	複数年	10,891	61%
		複数年	10,891	
金色の風	1,200	922		77%
		内、単年	32	
		内、複数年	890	
銀河のしずく	7,000	5,124		73%
		内、単年	43	
		内、複数年	5,081	
いわてっこ	3,000	複数年	2,251	75%
どんびしゃり	2,900	複数年	2,335	81%
その他	1,000		228	23%
合計	115,000	81,769		71%

JA・本会の3者や生産者を含めた4者による単年あるいは最大3年間の複数年契約となっております。(図1)

2. 直接販売・買取販売の拡大による安定的な生産量の確保

従来の販売方式を踏襲しつつ、実需者への安定した販路を確立し、「販売の見える化」を実践している取引先へ直接販売することにより、生産者と消費者との結びつきを明確にする取組を強化しています。また、本会が一定の価格で直接買取の買取販売については、生産者の所得安定をはかることを目的とし、平成30年産米における計画を16,000ト(平成29年産米4,900ト)としています。

3. 県産オリジナル品種のブランド化と販売強化

平成29年産米より「金色の風」「銀河のしずく」が本格的に販売され、取引先・消費者からは非常に高い評価をいただいています。しかし、近年全国の各産地からは、良食味の新品種が数多く販売されています。このような他の新品種との差別化をはかるため、本会では女優の「のん」さんを継続して起用し、「いわて純情米」のPRをテレビCMを中心にとして全国に展開していきます。また、首都圏やいわて花巻空港などにPR看板を設置し、消費者や観光客への周知を更に高めてまいります。

一貫パレット出荷による輸送の省力化や、トラック輸送のロットアップを継続的にこない、流通コストの削減に努めています。

この他にも、放射性物質検査・DNA分析検査・残留農薬検査を実施し「食の安全・安心」に対し科学的な根拠を示し、また、「特A」奪還に向けた技術の向上や情報の共有などを目的として、県内各JAの生産部会の代表による「JA稲作部会連絡会議」を立上げるなど、各種の事業を展開しています。

現在本県では水田の集約が進み、大規模な担い手や経営体が地域農業を支える存在となっております。また、生産調整制度の転換によって、作付の自由度が増してきたと考える傾向が出てきているのも事実です。このような情勢の中で、今後の稲作農業の継続をはかるためには、主食用米や業務用米・水田活用米穀を需給状況に見合ったバランスで作付していく必要があります。そのためには生産者の所得の安定・増大が必要不可欠であり、それが後継者の増加にもつながるはずですが、私たちは県内JAと連携し生産者のため、そして消費者に安全・安心なお米を届けるため、日々努力してまいります。



列ができるほど人気の「いわて牛・いわて純情豚」の振る舞い



会場が笑顔に包まれた「純情体操」の初披露

純情産地いわて30周年記念企画

「純情産地いわて」から感謝をこめて

平成30年8月11日(土)

8月11日(土)、JA全農いわては盛岡駅前にて「JAいわてグループ presents 純情産地いわて30周年感謝祭」を開催しました。県産農畜産物の「振る舞い」販売を通じて県内消費者、帰省者、観光客に「純情産地いわて」の魅力を目撃的にPRしました。

「純情産地いわて」とは、県産農畜産物の優れた品質を全国に広くPRするために名付けたブランドのこと。本会では、「純朴な生産者が情を込めて農畜産物を作っている産地」と定義しています。JA全農いわては、平成元年より30年にわたって「純情産地いわて」のキャッチフレーズで活動を行い、県産農畜産物のイメージアップや消費拡大を図ってきました。今年度は「純情産地いわて」を掲げて30周年。県内の生産者、JA関係者、取引先および関係機関、そして消費者に感謝の気持ちを伝えるために、今回の「JAいわてグループ presents 純情産地いわて30周年感謝祭」を開催しました。

昨年まで8月上旬に開催していた「いわて牛無料試食会」に代わり、今年度は30周年感謝祭という事で、多くの県産農畜産物の振る舞いや販売、ステージイベントを行い、バラエティに富んだ内容となりました。いわて牛・いわて純情豚の振る舞いには長蛇の列が並び、家族連れ等が焼きたての肉に舌鼓を打ちました。いわて純情野菜かち割りきゅうりや、いわての牛乳、いわて純情米の振る舞いも行われ、多くの来場者がこれらの県産農畜産物を味わいました。また、当日は30℃を超える暑さとなりましたが、奥中山高原乳業(株)販売

「JAいわてグループpresents 純情産地いわて30周年感謝祭」開催



本会職員から皆様へ「ご来場くださり、ありがとうございました!」

ブースのアイスクリーム等で、来場者は涼をとりました。その他、6次産業化商品の販売等も実施し、大いに「純情産地いわて」の魅力をPRしました。

ステージでは、NHK「おかあさんといっしょ」で活躍された「いとうまゆ」さんと、「2018いわて純情むすめ」のコラボによる「純情体操」を初披露。子供からお年寄りまで楽しみながら体を動かせる振り付けになっており、多くの方が振り付けを真似し、「一緒に楽しみました。また、佐野より子さんの民謡ショー、現役酪農家兼シンガーである橋和徳さんのサマーコンサートも披露され、会場は盛り上がりを見せました。主催者であるJA岩手県五連の久保憲雄会長は、「純情産地いわて」を掲げて30周年を迎え、より一層地域と全国から愛されるブランドとなるよう取り組んでまいります。」と「純情産地いわて」の更なる発展を誓いました。

岩手県本部は、今後とも本県農業のさらなる発展に向けて、生産者、JA関係者や取引先の皆様と一丸となり取り組んでいきます。



夏にぴったりの「かち割りきゅうり」も好評でした



手軽に味を楽しめるキューブ米は3品種販売しました



純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

消費地販売部発

消費地だより

29年産米の販売も終盤を迎え、新米のスタート時期となりました。7月下旬より、九州の鹿児島、宮崎、四国の高知などから早期米の出荷が始まっており、今年度は全国的な猛暑が続いており、私が駐在している愛知県名古屋市内も、連日猛暑日を記録しております。このような気候のなか、農林水産省の公表資料によりますと、高知県、宮崎県及び鹿児島県の早期栽培の作柄は、一部で7月豪雨の影響がみられるものの、田植期以降概ね天候に恵まれたことから「平年並み」が見込まれております(7月27日発表)。

ただし、連日の猛暑による高温障害が心配される状況です。30年産米が続々とスタートし、徐々に新米もスーパーで見かけるようになってきました。

「いわて純情米」につきましては、安定品質、安定供給の面から、各卸、各実需者から



多くの要望をいただいております。29年産米に引き続き30年産米につきましても、出荷契約数量を上回る数量の要望をいただいております。また、販売先のご協力をいただき、既に30年産米の事前契約の締結を実施しております。

中京地区におきましては、スーパー等量販店での販売が中心となっておりますが、近年は中食・外食など業務用実需者の需要も伸びてきております。名古屋地区では、長年岩手県産米を販売いただいております。固定客も多く、信頼も厚くなっております。固定客も多く、「いつも岩手のお米を買っているよ」とお声掛けいただくこともあります。

また、28年産米より販売開始となった「銀河のしずく」、29年産米より販売開始となった「金色の風」については、主要卸とともに販売先に向けた商談を行っております。各産地から良食味新品種がデビューしているなかで非常に好評をいただいております。各関係機関と協力してブランドの確立及び「いわて純情米」の更なる評価向上を目指してまいります。全国プロモーションの他、名古屋地区でも販促やキャンペーンを実施予定です。

現在、30年産米については実需者から出荷契約数量以上の要望をいただいております。安定した品質のお米を安定供給していくことが販売先からの信頼および岩手県産米の向上に繋がっていきます。生産者の皆様方には、農協、全農本部への出荷をよろしくお願いたします。



消費地販売課 佐藤 大介



今回は、夏にぴったりのメニューをご紹介します。純情産地いわての店「みのもるダイニング」では、夏限定で「スイカのフレッシュジュース」を提供しています。100%スイカで作られているため、スイカ本来の味をお楽しみいただくことができます。ほど良い甘さでゴクゴクと飲み干せる「スイカのフレッシュジュース」レギュラー(税抜680円)、スモール(税抜450円)、9月いっぱいまでのご提供になります。

まだまだ残暑が続くこの季節、ぜひ純情産地いわての店「みのもるダイニング」にて旬の素材の味をご賞味ください。皆様のご来店をお待ちしております。



※写真はイメージです。

「スイカのフレッシュジュース」レギュラー(税抜680円)
スモール(税抜450円)

報告!



出向く
活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
新沼 真也

親子三代で継ぐりんどう作り

JA岩手ふるさと衣川 鈴木浩伸
氏宅を訪問。

今回は、りんどう作りを親子三代で継いでいる鈴木家をご紹介します。
鈴木さんの経営面積は、りんどう1畝、水田4畝(内2畝受託)を営んでいます。



鈴木さんご一家。後列:恵美さん・博信さん・智也さん 前列:和子さん・賢一さん

昨年のりんどう出荷総本数は20万本を超え、今年は一割増を目指し栽培しています。
家族構成は、りんどう栽培初代である、父・賢一さん、母・和子さん、二代目・浩伸さんと妻の恵美さん、三代目・智也さん、そして次男・三男の方は会社員という7人家族です。
父・賢一さんは、平成10年に合併し誕生したJA岩手ふるさとの初代花き部会長や、平成13年に本会が創設した岩手県大型花き経営者協議会の副会長を歴任するなど、県内及びJA岩手ふるさと管内のりんどう生産に多大な貢献をされた方で、JA管内で出荷されているピンクりんどうの数は賢一さんの育成した品種であり、80歳になった現在でも地域と後継のために新しい品種の育成に取り組んでいます。

二代目の浩伸さんは、平成16年に父の後を継ぎ就農。夏場はりんどう栽培と併せ、11人で立ち上げた任意組合「奥州エアネット」で前沢・衣川地域の水田薬劑散布の作業を請負い、地域貢献をされています。また、冬場は以前勤めていた測量会社の下請業務を実施し、一家の大黒柱として忙し毎日を送っています。

三代目の智也さんは、平成元年生まれの29歳です。専門学校を卒業後、父と祖父が取り組むりんどう栽培に魅力を感じ、後を継ぐことを決意、就農して早や9年目、今では鈴木家で無くてはならない戦力である



収穫作業



規格選別・調整作業

事は基より、将来地域の担い手としても期待される有望な成長株です。
三代の男達を支えているのが、母の和子さんと奥さんの恵美さんです。
屈託の無いお二人の笑顔は、お人柄を表すと共に一家の太陽のようでした。
智也さんの祖母である和子さんは、「後は、孫の智也に花この好きなお嫁さんが来て貰えば、何んも言うごどねえ」と近未来の夢を語り、眼を輝かせていました。
「花が好きな娘、この指とくまれ！」



フラワーバインダーによる葉取り・調整・結束作業



品質チェック作業



結束後の水揚げ作業。この後に箱詰めし、出荷作業を行う。



取材前日は、144ミリのどしゃ降りの雨のため、乾燥作業を行う。30℃で30分の処理を行っていた。



賢一さんが開発した品種と育成中の品種名

笑顔がはじける

純情むすめ
活動記

純情産地いわて大感謝祭に参加して

8月11日(土)、盛岡駅前滝の広場で「純情産地いわて30周年感謝祭」が行われました。日ごろから支えてくださっている消費者の方に感謝の気持ちを込めて、新鮮なお野菜、お米、お肉など沢山の岩手の農産物が振る舞われました。私は、きゅうりとお米のコーナーで振る舞いのお手伝いをしました。とってもみずみずしいきゅうりは、太陽に照りつけられると、より輝きを増し、まるで「ぜひ食べて〜」と言っているようで多くの方の人気者でした。私もいただきましたが、何度噛んでもパリッカリッと言はれたいきゅうりがバテた体に元気を与えてくれました。また、会場の中でも番入気のいわて牛は、銀河のしずく、金色の風のお米と一緒に盛りだくさんにおかわりする方もたくさんの方のおいしそうに食べている姿を見ることができ、とても嬉しかったです。

さて、いわて純情むすめとして業務を始め約1ヶ月。岩手の様々なお仕事に挑戦していただいております。生産者さんの真剣な眼差しや、黒く焼けた暖かみのある手、明るい笑顔を見ると純情そのものを感じます。感謝の心を忘れず、これからも「純情産地いわて」を全国に発信していきたいです!



そして、今回のイベントでは、その「純情産地いわて」を盛り上げるために作られた「純情体操」



「純情産地いわて最高!」

が初お披露目されました! この体操は、いとうまゆさんが振り付けをしてくださいました。披露するまでは、緊張で心臓がドキドキでしたが、「一緒に踊ってくださいる方もいっぱい居て、大いに盛り上がりました。ジャンプをしたりキョウキョウしたり、とても楽しみなながら踊ることができました。お花、豆、牛乳、しいたけ、お肉など『岩手のおいしい』が歌詞につまった「純情体操」は、小さいお子さんにも楽しんでいただけるので、食育にもつながると思います。この純情体操が岩手に広まり、多くの方で踊ることができるよう、食べて踊って明るくPR活動に励みたいと思います。



2018いわて純情むすめ
藤田 麗

JA全農いわての 純情人

趣味・特技

趣味: 料理、映画鑑賞
特技: ドラム演奏

現在の担当業務

上司、先輩とともに岩手県内の酪農家、和牛農家の巡回や、主に種がつかない牛を対象にした受精卵移植を行っています。繁殖がうまくいかずかか農家の経営に大きく関わってくる部分ですので、技術的な難しさはありますが、農家に喜んでいただける仕事としてやりがいを感じています。



畜産酪農部
生産指導課
いけだ ともき
池田 知生さん

田んぼと生きものの深いつながりを学ぶ

平成30年7月21日(土)

平成30年度田んぼの生きもの調査

JAいわて花巻とJA全農いわては、花巻市の圃場で、「平成30年度田んぼの生きもの調査」を開催しました。1年間を通じて子どもたちに「いのち、農業、食べ物の大切さ」を伝えることを目的とした、「平成30年度ちやぐりんスクール」の一環の一つ。この田んぼの生きもの調査には、JAいわて花巻管内の小学校1・2年生とその保護者の計34名が参加しました。

講師を務める全農ビジネスサポート株式会社の中川護さんの指示のもと、参加者は裸足で田んぼに入り、親子で田んぼに生息する生きものを捕まえました。田んぼに足を踏み入れた瞬間の泥の感触に心を弾ませながら、より沢山の生きものを捕まえようと熱心に取り組んでいました。調査終了後には参加者全員で、捕まえた生物が入った水槽を囲み、田んぼとそこに生息する生物の深い繋がりを確認。中川講師は、いかに地域の生態系を田んぼの存在が支えているのかを伝えました。

また、当日は岩手県JA-SSチェーンから、生きもの調査で汚れた服やサンダルを入れて持ち帰られるようにと「ランドリーバック」等を、贈呈しました。

ちやぐりんスクールに参加する子どもたちは今後、稲刈りやジャンボのりまき作りなどを体験し、農業や食べ物の大切さを学んでいきます。



子供たちの楽しそうな笑顔



どんな生き物がいたのか、みんなで観察します。



真剣な表情で観察中。



最後は、みんなで田んぼの生き物調査について振り返りました。

重点市場・販売先との結びつきを強固に

平成30年7月26日(木)

平成30年度いわて純情りんご販売対策会議

JA全農いわては、7月26日(木)に、花巻市内のホテルで、平成30年度いわて純情りんご販売対策会議を開催しました。各JAと重点青果会社13社、関係機関の計42名が参加。今年度のいわて純情りんごの生産販売対策について協議をしました。

今年度のいわて純情りんご計画販売数量は、前年比15.6万ケース増の100万ケース/10kgです。目標達成に向けて、下記の具体策を掲げることで、生産基盤の維持・拡大をし、生産者収益の安定化をはかります。

- ・「オールいわて」としての重点市場への出荷を拡大
- ・買い取り販売の拡大(新規買取として、小玉りんご販売を開始)
- ・重点販売先を中心とした販促フェア・消費宣伝活動の実施
- ・品質向上のための選果レベルの底上げと統一化

また、本県オリジナル品種である「紅ロマン」「紅いわて」の「紅いろシリーズ」、昨年度販売額1億円を達成した「冬恋・純情はるか」のPRにも力を入れ、いわて純情りんごのブランドイメージ向上に取り組めます。



生産販売対策について協議し、目標達成に向けて意識を強めました



編集後記

佐藤に代わり、「クララ」編集担当になりました。井戸川です。今月号からとりまとめを務めさせていただきます。入会して半年近く経ち、少しずつ業務内容に慣れてきましたが、まだまだ分からないことだらけです。周りの方に教えていただきながら、これからも

日々勉強していきたくと思います。

JA全農いわての広報担当として、県産農畜産物の魅力や、生産者・関係者の方々の努力を「クララ」を通して伝えていきます。これからよろしくお祈りします!

(井戸川)

一関から夏の便りをお届け!

平成30年8月2日(木)

一関ふるさと便 夏の便 出発式

一関市とJAいわて平泉でつくる一関ふるさと便事業実行委員会は、JAいわて平泉西部営農振興センター前で「一関ふるさと便『夏の便』出発式」を行い、管内の生産者が作ったリンドウやジュースを首都圏に向けて発送しました。

「一関ふるさと便」は、産地確立とPRを図るために、毎年夏と冬に実施されています。「夏の便」である今回は、3種類のリンドウ(須川高原りんどう、ピンクりんどう、複色青白りんどう)とトマトジュース、りんごジュースの計5つを取り扱います。

出発式では、テープカットやジュースによる乾杯、運転手への花束贈呈の他、昨年度「冬の便」にて実施したアンケートから3名に、紫リンドウをプレゼントする抽選も行われました。

同実行委員会会長の勝部修一関市長は、「首都圏に居る方に一関の特産品をしっかりと届け、新たなファンを獲得していかなければならない」と産地確立や消費拡大について述べました。



ふるさと便の出発を祝う一関市長(中央)と関係者



2018いわて純情むすめから佐川急便の運転手へ花束を贈呈しました

酪農業を豊かに ホルスタイン集結!

平成30年8月10日(金)

第47回 岩中酪ホルスタインショウ

岩手中央酪農業協同組合は八幡平市畜産共進会にて、「第47回 岩中酪ホルスタインショウ」を開催しました。ホルスタイン種40頭が出品され、月例に応じた発育や体積、品位等の審査が行われました。第1部～第4部の優等1、2席(計8頭)から名誉賞、準名誉賞が選ばれ、賞状と記念品が渡されました。

岩中酪の工藤定幸代表理事組合長は、「酪農家の戸数や生産が減少してきている現在、岩手を始めとした地域において酪農業を発展させ、生産基盤の強化に努めていくことが必要である」と、岩手の酪農業の重要性について語りました。

名誉賞、準名誉賞に選ばれたのは、次の通りです。

区分	出品番号	名号	出品者名
名誉賞	404	モリノウ グランド ファイナル	盛岡農業高校
準名誉賞	209	チェリーランド パイウエイ マラソン	佐々木 総隆さん



緊張した面持ちで審査結果を待つ出品者たち



名誉賞に選ばれた盛岡農業高校出品の「モリノウグランド ファイナル」

りんご「紅ロマン」快進撃!

平成30年8月18日(土)

「紅ロマン」初競りトップセールス

8月18日(土)に、江刺りんご「紅ロマン」の初競りが大果大阪青果(株)、東京青果(株)、丸毛盛岡中央青果(株)の3会場で行われました。

「紅ロマン」とは、岩手県奥州市江刺区にある紅葉園の高野卓郎さんが育成した江刺オリジナル品種で、暑い時期に赤色に色付き、収穫することができる極早生品種です。シャキシャキとした食感と、ほど良い甘さ、酸味が特徴的となっています。

今回の初競りでは、大阪で最高価格1ケース(10キロ秀28玉)が20万円で落札され、盛岡では過去最高となる15万円(10キロ秀32玉)での落札という好結果が出ました。7、8月の雨量不足の影響により、大きさは小玉傾向ではありましたが、糖度も高く前年産より価格も上りました。

同JAでは今年度、11,000ケースの「紅ロマン」出荷を計画しています。



鮮やかに色付く「紅ロマン」



初競りに多くの仲買人たちが駆けつけました。

JA SS



いわてJA-SSチェーンは

全農
ひとつと強く

軽トラック
用

岩手の農業を
応援します



スタッドレスタイヤ 特価キャンペーン

キャンペーン期間
2018年9月1日(土)~10月31日(水)

国内3メーカーのスタッドレスタイヤを大特価でご奉仕!

<p>DUNLOP WINTER MAXX SV 01 145R12 6PR</p> <p>4本 セット</p> <p>12,420円 (税込)</p>	<p>YOKOHAMA ice GUARD iG91 for VAN 145/80R12 80/78N</p> <p>4本 セット</p> <p>12,420円 (税込)</p>	<p>BRIDGESTONE W300 145R12 6PR</p> <p>4本 セット</p> <p>13,500円 (税込)</p>
--	---	--

※金額はタイヤ4本セットでの価格となります。ホイールは含まれておりません。※作業工賃、廃タイヤ処理料は別途になります。

詳しくはお近くのJA-SSへ

JA SS いわてJA-SSチェーン

チェーン本部 / 岩手県盛岡市上厨川横長根42-1 TEL.019-646-7283
http://www.junjo.jp/ja-ss/ [いわてJA-SSチェーン](#) [検索](#)



私たち全農グループは、
生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

